

古地磁気・岩石磁気研究会

活動報告

世話人：石川 尚人

当分科会では、2003年9月～2004年5月の期間に分科会活動の一環として以下のことが行われた。

- (1) 第114回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会（富山大学）の際、「地磁気・古地磁気・岩石磁気」セッション（11/3）において、トロント大学の Dr. David J. Dunlop, Dr. Özden Özdemir 両氏の招待講演が行われた。
- (2) 2004年3月23-25日、高知大学海洋コア総合研究センターにおいて、「若手研究者・学生のための掘削コア磁性測定技術習得ショートコース」が開催された。

報告：

若手研究者・学生のための掘削コア磁性測定技術習得ショートコース

海洋研究開発機構 固体地球統合フロンティア

久光 敏夫

（高知大学 海洋コア総合研究センター派遣）

2003年4月に完成した高知大学の全国共同利用施設である海洋コア総合研究センターは、最新の地球科学研究を行うために数多くの測定機器を導入した。その中の一区画である「岩石・古地磁気研究ラボ」では、様々な岩石磁気分析装置や数台の超伝導磁力計を導入した。当センターに所属する古地磁気ラボは将来のIODP航海によって得られる大量の岩石・堆積物コア分析を主眼に設計され、今後必要となる多くの研究者に利用されることとなるであろう。

当センターでは3月23日から25日までの3日間において、若手研究者や学生のために磁性測定技術習得のための短期プログラムが行われた。古地磁気ラボでは新規導入された機器の使用方法や原理、また測定手法やその問題点について理解し若手研究者育成のための情報交換が目的である。全国各地から参加された方々の半数は学生やポスドクなどの若い研究者であり、古地磁気・岩石磁気学の基礎と分

析手法について学んだ。

ショートコースは初日の講演と、実際にコア試料や岩石試料を用いた測定実験から構成された。講演ではベテラン研究者から各測定機器、例えば超伝導磁力計や熱磁気天秤などの動作原理や測定方法を分かりやすく紹介して頂いた。また最近の研究例を紹介して頂くことにより、測定結果の取り扱いや研究への応用方法を実感することが出来た。それぞれ測定装置の特性や分析目的を把握した後に、実際にラボの機器を用いた分析測定を実施した。これには、試料の採取方法や形成過程から機器の起動・終了方法までが含まれる。約30名の参加者は5名ほどのグループに分かれ、各機器の操作・測定を行った。短い時間ではあったが、機器の取り扱い方法についてのノウハウや試料の処理方法など学ぶことが多く有意義な時間であった（写真）。

本ショートコースは日本掘削科学コンソーシアムによって後援されIODPや掘削船「ちきゅう」の建設状況などが報告された。船上に搭載される実験装置はそのまま当センターの機器と同じであるため、特に若手研究者の皆さんにコア分析の基礎を学んでいただけたならば幸いである。また、各大学および研究機関に所属する講師の方々による講演と配布資料は、そのまま教科書として利用できるほど内容が濃く、主催者の一人としてこの場を借りてお礼申し上げたい。

